



JCNA 通信 第20号

発行日	2016年11月20日
発行人	西村晶子
編集人	山口郁乃
創立	1957(S32)年
会員数	250名

2016年度テーマ

マリアのように、いつくしみ深いイエスに自らをゆだねる
「この人が何かいいつけたら、そのとおりにしてください」(ヨハネ2・5)

日本カトリック看護協会 会長 西村晶子

2014年度総会で選出された3人(井坂玲子・西久保秀子・平田初枝)の本部役員は、任期満了に伴ってこのたび退任となりました。お疲れ様でした。たくさんのご指導に心から感謝申し上げます。

2016年度総会では新しく2人任命されました。副会長、山口郁乃、会計、石原貴子です。本部役員は、3人のスタートということになりました。どうぞよろしくご協力の程お願いします。

2016年度活動は、これまでの活動を継続して取り組んでいくことを確認いたしました。追加された活動内容は、本部役員代行として、長崎支部長 石岡ヒロ子さんはパストラレケアを担当。東京支部 副支部長、東野妙子さんはCICIAMS担当、直ちに委嘱状を発行いたしました。副会長 山口郁乃さんは、平和への希求—時代を生きる私たちの選択—を担当することになりました。これらの活動は、各支部の活動と合わせJCNAのナースとして、取り組みたい課題です。皆様の一層のご協力をお願いします。

パストラレケアは、JCNAのナースの看護の基本に据えたいテーマです。全員が学び、看護するすべての対象者に関わるときに人間関係理論として学びたいと思います。もちろん病気の人だけではありません。関わるすべての人です。石岡ヒロ子さんはシスターです。私は、シスターがJCNAの活動に加わっていただきたいと常々思っておりましたので今回お引き受け下さって大変嬉しく思っております。

CICIAMSは、世界の看護の実情を知るためには、そしてJCNAは何ができるかを知ることが、必須のことだと思います。8月アフリカのスワジランドで開催された総会には、札幌支部顧問司祭、ケン神父様が代表としてご参加くださいました。総会では、直接ご報告をいただきました。パワーポイント、資料も活用され分かりやすく、CICIAMSを始めて身近に感じました。各支部長からは、支部会員にご報告がなされると思いますが、パワーポイントは、容量が多く送信はできませんが、USBにして郵便では送れますので、必要がある支部は、本部事務局へ申し込んでください。CICIAMS担当は、聖母病院に勤務されるシスター東野妙子さんです。顧問司祭の代行として同じくCICIAMSを担当して下さっている、バレンタイン・デ・スーザ神父様もこの病院で一緒の関係で、本部事務局との連絡では大変助けられております。西村が会長になりましたと報告しても、事務局が移転しましたと言っても、CICIAMS名簿が書き換えられるまでは、時間がかかり、スムーズではありませんでした。ケン神父様が総会に出席されて、直接、会長は西村ですと伝えたとご報告をいただきました。それでやっと、メールがスムーズに届くようになりました。

平和への希求・・・これは本部役員代行を受けて下さってました山口支部長が、副会長に選任されましたので、本部役員代行ではなく、副会長としてその役割を引き受けることになりました。平和の問題は、全てにおいて第一に取り上げ、常に意識して取り組みたい課題です。広島大会を成功させた支部長として引き続き、平和の問題に積極的に取り組んでほしいと願っております。

JCNAは、JCMAが主催するカトリック医療関連学生セミナーには、JCMIAと共に協賛団体です。今年度から、開催地の支部長が、運営委員会に参加することになりました。会員の方々、看護学生の方々へ、もれなくご案内ができるよう、各支部長と連携して取り組んでほしいと思います。今年度開催地は東京です。初の運営会議は9月25日開催されましたが、詳細についてはすべてが確定してから改めてお知らせします。本部役員会は3人のスタートですが、書記・広報を担当して下さる方の推薦をお願いします。また、2018年度以降の大会担当支部の手挙げも、ご検討ください。

新役員挨拶

JCNA副会長をお受けして

副会長 エンマヌエラ山口郁乃

JCNAと初めて出会ったのは、東京で開催された大会に、クラス全員が参加させられた学生の時、はるかなステージに登壇された井深会長と客席の私たちには距離があり、内容も記憶していません。3年間のカトリック看護教育のおかげで卒業の年のご復活に受洗。JCNAに加入しましたが、帰省後は脱退。家事育児との両立に多忙、経済と気持ちに余裕がなく加入勧誘に応じられませんでした。でも、看護の仕事に主イエスの干渉と友の支えが必須です。司祭と友を用意してくれるJCNAに再加入。私の信念は、グループに入ったらその生きている細胞になること。「非力であるのは主イエスのご存じだから恥じない。重荷から逃げることを恥じる」という考え方なので、身の程知らずの安請け合いをして自壊したこともあります。今回もそのリスクはありながら、受けました。広島大会は、主イエスが置かれたたくさんの人々の強力な支援でまとまりました。この1年も是非そうありたいものです。来年の大会でまた井深八重さんにお会いできるのを楽しみにしています。

会計担当

会計 石原貴子

今年度から会計を担当させていただきます東京支部の石原貴子と申します。現在、会員数が減少し新入会員も少数といった現状があります。その中で、会員の皆様から頂いた会費を有意義に活用していけるよう心掛けていきたいと思っております。何分にも初めてのことで、誠実に努めて参りますので、よろしくお願い致します。

パストラルケア担当 本部役員代行

長崎支部長 Sr石岡ヒロ子

臨床パストラルケアとは

「臨床パストラルケア」は、パスター(羊飼いは羊を親身になって世話をするように、人をケアするということからでた言葉です。患者と家族、その友人及び医療従事者のスピリチュアルな痛みやニーズに寄り添う事です。

2、スピリチュアルな痛み・ニーズ

人が病気、高齢、あるいは、死を意識したときに、心に問いかける、湧いてくる疑問、事柄があります。例えば、

- * なぜ、自分がこんな病気になったのだろうか。
- * なぜ、今なのか。
- * どうして、私が、苦しまなければならないのか。
- * こんな、状態で、これから何のために生きて行けばよいのだろうか。
- * 死ぬのは恐ろしいがどうすればいいのだろうか。
- * 死んだらどうなるのだろうか。

このような問いかけ、スピリチュアルな痛み・ニーズを聴き、把握し、明確にし、患者・その人自身が自分の中にそれに対して対処していく力を見いだせるように関わるケア、行為が、スピリチュアルケア(臨床パストラルケア)です。

3 教育

看護師が看護学校で専門教育を受け、その後も臨床の場で、看護し、学び、看護師となって行く様に、スピリチュアルケア(臨床パストラルケア)を行うには、専門的教育と訓練が必要です。1998年に発足した、NPO法人、日本パストラルケア教育研究センターは、この専門的教育と訓練を行っています。臨床パストラルケアの資格認定過程があります。

4-1 臨床パストラルケア学びの動機

私は看護部管理の傍ら、患者がスピリチュアルな問いを発し、看護師が対処に困難な状況の時、依頼を受け患者訪問をしていた。定年の年を間近に控えた頃、ホスピス病棟師長から、「死ぬ日は、自分で決めてはいけないのかしら」と看護師問いかけるともなく、問う方がおり、看護師が対処に困難を感じているので、訪室してほしいという連絡が入った。早速訪問し、2ヶ月半程、その方が旅立つまで、関わりをもった。その方には、ほぼ毎日訪室し、聴くことに徹するケアであった。やがて、その人自身が、自分の中に「死ぬ日は自分で決めてはいけないのかしら」に対して力を見出し、家族に、周りに感謝と、またあいましょう。お先に。と、

旅立たれた。私に関わった中には、この方のように、その人自身が、自分の中にそれに対処していく力を見出せるように関わるケア、行為、スピリチュアルケア(臨床パストラルケア)を、行う事の出来た人と、その人自身が、自分の中それに対処していく力を見出せずに、旅立つ人がいます。違いは、何なのか、どのようなケアがその人のためになるのか、深めて行きたいと、強く望んでいる時に、臨床パストラルケア教育研修センターの患者訪問会話記録記事に出会う、これは、是非学びたいと、受講を開始しました。

4-2 研修体系・科目

臨床パストラルケア研修会には、3つの種類があります。一般研修会、臨床パストラルケア・ワーカーと、カウンセラー資格認定過程です。カウンセラー認定過程では、科目ⅠからⅧと呼ぶ、8回の研修があります。受講者は、自分自身の傾向、価値観の明確化等を学びつつ、患者を訪問します。会話記録を作成し、指導を受けます。会話記録を作成し、アドバイスを受け、会話記録を通して、訪問そのものを客観的に見直し、自分自身の傾向・ケアを学ぶ大切な場です。神学・哲学講座が10日間、2年間あります。この学びも非常にインパクトの強いものです。研修最終、科目Ⅶ、Ⅷの段階で、自分自身の統合という面から、自分史を書く機会と分かち合いがあります。

4-3 研修中の苦労

課題に「ブックレポート」と呼ばれるものがあります。5つの領域があり、領域1は、人間理解、哲学、宗教。領域2は、心理学。領域3はカウンセリング、領域4は、スピリチュアルな事柄、領域5は、ケアという分野です。各領域に参考となる書籍のリストが提示され、各領域から2冊、合計10冊のレポートを書きます。ブックレポートは、テーマ、要旨、内容と感想ですが、私は再提出なし、すなわち1回でパスしたのは1冊のみとおもいます。再提出、再々提出の連続です。誠に丁寧に指導していただき、頭が下がりました。ブックレポートは患者訪問記録と同じ様な意味をもつものとして、考えられています。

- ① 患者の話を傾聴する＝本の内容を十分に掴む。
- ② 患者が言いたい事＝本のテーマについて著者の主張、思想を理解する
- ③ 会話記録を書く＝本の内容を正確に勝完結にまとめて書く、等です。

2013年1月に科目Ⅰ(人間関係とコミュニケーション)を受講開始、2015年12月に科目Ⅷ(心理学的、哲学的、神学的、宗教的人格の統合)研修を修了、認定過程の規定課題を通過、2013年6月、第19回臨床パストラルケア全国研修会in長崎にて臨床パストラルケア・カウンセラー資格認定を受けました。以上簡単に臨床パストラルケア教育研究センターでの学びを伝えました。

5 臨床パストラルケアの実際

現在、わたしは、長崎、浦上の丘にある宗教法人聖フランシスコ病院、宗教部パストラルケア室に勤務しています。臨床パストラルケアの実際2つを分かち合います。

ホスピス認定看護師学生との学習会

看護協会は、特定の看護分野において熟練した看護技術と知識を用いて水準の高い看護実践、看護現場における看護ケアの広がりや質の向上を目指して、認定看護の教育に力を入れています。聖フランシスコ病院ホスピス病棟にも、ホスピス認定看護師を目指し、受講生が来ています。受講生の質問に共に考える時間を持っています。ホスピス認定看護師を目指す受講生との関わり合い、学習会も臨床パストラルケアの一つです。

一人の受講生の質問、疑問です。

世界保健機構が推奨する健康の定義にスピリチュアルケアが在る事と、スピリチュアルという言葉は聞いている。ホスピス認定講座の座学でスピリチュアルについて講義を受けましたが、今ひとつ理解できませんでした。今受け持ちの患者さんは、カトリックの洗礼をうけており、シスターと祈る時、とてもホットした印象を受けます。看護記録に昨日、談話室で、「足が張れ、痛いですね」というと、「足も心も痛い」と答えたとありました。「心が痛い」この言葉、この痛みが、スピリチュアルな痛みなのかもしれませんが、初めて聞く言葉であり、困惑しています。私は受講生の質問を聞き、話しながら、私自身「祈り」の発見、儀式的祈りも祈りという、気づきを頂いた。受講生には、やり取りを交え次の様な内容を話した。受け持ちの患者さんは、子供の頃覚えた「祈り文」を一緒に唱える事を望みます。祈りは、自分を超えた方、神様、そしてマリア様に向かって、或いは少なくとも、神に向かおうとしていると思います。神様との出会い、神様に向かうには、ある意味儀式のように、祈りを考えておられる方もいます。大切な貴い方だから、儀式のように、気をつけて、言葉、祈り文も唱えたい。しかし、一人では、どうもできないので、私と一緒に祈る事を望み、祈ることができたことを喜び、ホットされる表情となっているのかもしれませんが。「心が痛い」という表現、心は、ある意味みえませんが、嬉しければ顔の表情は和らぎ、時には、言葉も優しくなります。「心」に関する表現をしている2冊の本を見ながらの学習会。1冊は「相田みつお」の書と詩。もう1冊は絵と詩を書く「星野富弘」の書です。このような学習会の中で、受講生自身が、考え、答えを見つけました。これからも学び続けるでしょう。

ほぼ沈黙のなかでのパストラルケア

会話記録 (Gは、ゲスト患者、Hは、訪問者、この会話記録では、訪問し、記録者である私)

- H1: (半開きのドアをノックすると、ハイと返事がある)失礼します。こんにちは。(病室にはいり、ベット側にいる母親と姉に軽く会釈し)Gのベット側に行く。
- G1: (ベットに横になり目をつぶっている)
- H2: (耳もとで)Kさん(肩に手を触れる)
- G2: (少し目を開ける)
- H3: Kさんお久しぶり。
- G3: (しっかり目を開け、Hをじっと見る)
- H4: (間) Kさん
- G4: (微かに手をHにちかづけようとする)
- H5: (両手でGの顔を包むようにしHの顔をちかづけ暫く泣いた) (間)
- G5: (声はなく、目に涙が流れる)
- H6: アイコンタクト(じっと目を開け静かにHを見る)
- H7: アイコンタクト
- G7: (笑顔でHを見る) 母親1:笑っている
- H8: ○○年ぶりね。
- G8: (笑顔。小さな声)ええ
- H9: 病気って聞いて、心配していましたよ。
- G9: (ありがとうというような感じで)頷く うん。(目に涙が流れる)
- H10: (ティッシュでGの涙を拭いた後、顔に触れながら)本当に。…よう頑張った。
- G10: ん。(暫くのアイコンタクトの後、目を閉じる)
- H11: (小さな声で)疲れさせたかな。(同室の2人に向かって)そろそろ失礼します。Kさんまた来ますね。

母親2:この子の笑顔が見られて。(母親は自分の目頭を拭きながら)また、来てください。

H12: ハイ。じゃ今日は失礼いたします。

感想など

- ① 知人で数年前に癌となり手術を受けた事。数カ月前にホスピスを予約した事等を聞いていた。入院当日Kを訪問。その後も数回訪問し。5日目に旅立たれた。髪の毛は、抗がん剤の副作用の後で、少し生えてきた感じの1センチ程度。
- ② 2日目訪室すると、清拭、パット交換のため、母親を談話室に誘う。マンドリンの演奏で童謡を聞く。ボランティアの入れたコーヒーを飲む。母親は音楽が好きですと笑顔。
- ③ 3日目。訪室すると、付き添いの母親は、休んでおられる。Kのベット側に行くと目を開ける。祈っても良いか聞くと、笑顔で小さく頷く。手に触れながら、祈る。

母親からの情報と反省

今月初め、子供の学校行事に○○(車で2時間程度)に行けた。その後、急に病状が進んだ感じで、痛みも強くなり、言葉もなく、そして、入院したとのこと。しかし、Hとのやり取り、その間の顔の明るい表情笑顔、目もきちんと開けて、母親はとても慰められたという。20数年前主人もガンで逝った。この子(K)に力付けられた。その当時は、このように、ボランティアも話を聞いてくれる人もなく、家族への関わりはなかった。今回は、とても力強い支えを感じたと話された。しかし、死亡退院時、夫と子供たちが、見えたが、他、親類の方もおられ、ご家族の方々には、一般的な挨拶程度の関わりとなった。

JCNAは、看護の対象者ケアに当たって、パストラルケアを学び、それを生かした看護ケアをめざすことは、今後の看護活動になくてはならないものです。また、『自己の霊的成長』に繋がるものであると思います。本部役員代行として、研修会のご案内から始め、いつかは看護の分かち合いができれば更なる大きな学びとなると思います。どうぞよろしくお願いいたします。

CICIAMS担当 本部役員代行

東京副支部長 Sr東野妙子

この度CICIAMSの担当司祭飯野神父様の代行を、バレンタイン・デ・スーザ神父様が担当されます。同じ聖母病院に勤務している関係で、私が神父様と本部との橋渡しとして、CICIAMSの本部役員代行を担当させていただきます。SISIAMSへの参加は大切です。

支部活動 ☆ 短信

《仙台》

支部長 古関 睦

仙台支部 8月、マリア祭をエメ神父さまの 祝福のもと、旧会員の協力を得てスペルマン内科病棟で行いました。JCMAと協賛で盛岡で公開講演会開催「子供の命を守る一福島原発事故か5年」講師 篠原弘敏さん。やはり甲状腺障害児が増えているとの報告。AFCMAにてカリタスジャパン、CTVCの協力のもと原町ベースの名古屋支部の南原さんと協力、大震災の現状等をブースをもうけ写真展示。福島原町の仮設の方のストラップを配る。東松島仮設の方の手作りのアクリルタワシを大会参加者にお土産として提供。顧問司祭が佐々木博神父さまに交代、アジア大会にも参加して下さいました。皆様有難うございました。

《福岡》

支部長 牧山幸二

9月の例会で顧問司祭ジョンソン神父様が、ACAグループ(自分はACと認めている人達の集まり)ミーティングの事例を提供してくださり、各々の経験や意見が交わされた。熊本地震のボランティアについても分かち合った。

《新潟》

支部長 大瀧久江

10月4日アシジの聖フランシスコ修道者のお祝い日に長岡教会に於いて、菊地司教様を始め12名の神父様による荘厳な御ミサにカトナース3名が預かりました。また、10月29日の高田教会婦人の集い時に健康相談を行います。

《広島》

支部長 山口郁乃

9月、萩教会のイベントにJCM Aの篠崎医師と支部会員2名でAED講習をしました。(カトリック新聞声欄既報) 改築された、小野田老人ホームで11月6日例会。ホームの文化祭に協賛して健康相談と血圧測定もします。手入れの行き届いた庭も建物も、地元にとけ込んだ純心聖母会の働きも美しい老人ホームです。支部会員2名ここで働いています。11月1日叙階されたアレキシオ白濱満新司教様にお会いして、JCNAの存在をアピールします。23日は島根で、永井隆博士追悼平和祈念ミサがあります。

《大阪・姫路G》

G長 Sr川口百合子

『人がする人への支援』とは物や思いを与えることで何かを意識的に変えようとするのではなく、お互いが同じ時間と場所を共有するコミュニケーションの場なのかもしれない(東京支部ニューズレターより一部引用)

私たちは釜ヶ崎で夜回りを始めました。今そのことを体験しております。

《札幌》

支部長代行 児玉弘美

10月22日、支部黙想会が円山カトリック教会で行われました。残念ながら腕の骨折の病状が思わしくない支部長は欠席でしたが、ケン神父様のご指導のもと13名が、人間関係とストレスについて聖書と実技をもって学びました。

《京都》

支部長 西川加之子

奈良県からの会員誕生で京都教区一府三県のすべてに会員が在籍することになりました。2016AFCMAの開催にあたり多くの方々にボランティアとして参加していただき感謝いたします。

《長崎》

支部長 石岡ヒロ子

2017年支部総会は五島10月の支部定例会・次年度の全国大会は、御殿場・神山復生病院で10月に開催されることに関して、会話が進む中で、次年度長崎支部の総会の話しに飛び、「五島で開催しよう！」時期は、4月復活祭の次の週4月22日(土)23日(日)と決定。JCNA創立に関わる井深八重さんの、熱意に見習い、五島に行こう！の熱い定例会でした。

《鹿児島》

支部長 松村精子

9月の土曜日(第4)ゆらいあいの高齢者の集いで(JCNAが後援)、ザビエル教会の歌を愛するグループの合唱があり。ロッキーニーの信、望、愛が披露され、みなたいそう感動致しました。歌を通して、信仰が高められる一日でした。

《横浜》

支部長 井阪礼子

9月の全国総会からあつという間に1か月が過ぎてしまいました。各支部長さんの生の声を直接聴ける貴重な機会、例年になく時間的に余裕があつて、とても有意義な時を頂きました。ありがとうございました。目下のところは、JCNAのPRのために新しく頂いたパンフレットの有効活用と来年の大会に向けて、準備に勤しんでいるところです。が、身辺を愛おつてはいなくても、高齢化と、避けることのできない健康上の問題を抱える会員が増えてきている現実があります。でも気持ちはカト看に向いていて、お祈りで支えて下さっています。有り難いことで、何としても来年の御殿場大会を成功に持っていきよう！！との意を強くしています。皆様のご協力、宜しく願いいたします。

《高松》

支部長 藤田美美穂



今回はお休みです

《東京》

支部長 西村晶子

11月27日JCMAと合同黙想会です。指導は、支部顧問司祭バレンタイン・デ・スーザ師です。

12月10日はクリスマス会です。来年はカトリック医療関連学生セミナーの担当支部です。どうぞよろしくお願いします。運営会議は始まっておりますが、詳しいことはまだ確定しておりません。

10月入会希望者が1名おりました。ただいま手続き中です。

《名古屋》

支部長 鈴木光恵

6月に念願だった福島県の被災地訪問を顧問司祭、会員6名と実現できました。CTVCカリタス原町ベースを拠点とし、南相馬のボランティア活動にも参加。まだまだ復興の途上にあることを痛感しました。新入会員を迎え、例会の参加率を上げられるよう試行錯誤しています。

《大分》

支部長 阿南幸子

9/25日第1回例会の開催、今年度目標を再確認しSrから指導を仰ぎました。又、別府には「神の愛の宣教者会」があり4名のSrがいます10/29日、聖テレサ列聖記念ミサがあり今年度の活動に多くの恵みを頂きました。10/23日日出殉教祭で救護活動、遠方からの巡礼者のお役にたち幸いでした。

2016年度活動計画予定（2016年9月～2017年8月）**2016年度活動方針**

2015年度の活動継続は、本部役員代行(河野小夜子)による HIV/AIDS、担当継続、本部役員代行(京都支部長 西川加之子、副支部長 山本信子)によるAFCMAin京都大会担当継続、JCNA通信年3回発行、Hpの管理、関連団体との連携、カトリック新聞への広告掲載等。

2016年に追加または確認されたものは、

- ① 平和への希求:担当:広島支部長山口郁乃(JCNA副会長として担当する)
- ② パストラルケア:担当:長崎支部長Sr石岡ヒロ子(本部役員代行)
- ③ CICIAMS 担当:東京支部副支部長Sr東野妙子(本部役員代行)

(担当司祭は飯野神父様代行、東京支部顧問司祭バレンタイン・デ・スーザ神父様)

* 今年度総会では、新しいパンフレットが配布されました。積極的に活用して、多くの看護者の皆さんに、JCNAを語っていきたいと思います、皆様のご協力をお願いします。

東京支部 顧問司祭 バレンタイン・デ・スーザ師

「植えられたところに咲きましょう」

“祈り”の、しめす偏は、個人々々の生き方を指し示している。これをどこまで私たちは意識して生活しているか。意識することによって、くり返し、くり返し行っていくことによって、自分の身になっていく。自分の身体に溶けていく。インドの瞑想では、呼吸が身体に溶けて私たちの肉体となり。私たち一人ひとりを生かしている。個人々々が生かされていくことになる。

日常生活では、自分の要求や人々の要求、社会の要求などなどから、私たちは薄っぺらなものになってしまう。薄っぺらなものになってしまったら、大きなパンの上にジャムを塗った時のようなジャムを食べているか分からなくなってしまうようなものである。このように生活の重み、厚み、深さ、高さ、幅が無くなり、自分の価値が分からなくなってしまう。神が自分に与えて下さった使命から外れてしまう時も少なくない。深めて高めて厚さを増して自分の身についたものは実現しやすい。重みが自然に生きていく。一つの簡単な例として・・・私たち個人々々の人々への親切な心はいつまでも残る。相手の学歴、優れた知識は本人のものだが、自分に関係が無い、周りの人に関係が無いので忘れてしまう。・・・親切な行いは、それを受けた人が心の中で思いめぐらすことができる。学歴、知識はその人が亡くなったら終わってしまうのである。

私たち一人ひとりの生涯は何かを指し示している。この指し示しているものに私は忠実に生きているだろうか？個人々々生まれた時からこの世を去る時までの期間、祈りは私たちの生涯を指し示している。人々のために祈っていますか？人々のために祈っていたら、自分も相手も変わる可能性がある。祈りから始まって祈りで終わる一日となったら、実りのある明日になると思う。明日は実りが芽生えてくる。

JCNAとして、私たちは毎日の生活の中で人々の健康に関わっている。物質的な身体に関わっている。私たちは頭で得た知識を、心で温め、手で表す。私たちが、祈りから精神的に関わることになったら、私たちの許に訪れる一人ひとりに、スピリチュアルな癒しを与えるのではないだろうか。

しめす偏は、個人々々の生涯の何かを指し示している、意識を高めることによって。「植えられたところに咲く」・・・自分の立場、周りの環境が分からなかったら咲けない。使命をもって生まれている私たちは、自分の植えられたところを大切に自分自身を咲かせる。私たち個人々々は、咲くために生まれている。空手で、実を結ばずにこの世から神さまのところには戻れない。生活は完成させるためにある。どうぞ一緒に自分が植えられたところで咲きましょう。人々に手を貸しながら、皆が豊かになっていく。満たされた生活をする事、生きる事の実現は、自分を生かすため、人々を生かすためには大切なことなのです。



JCNA会員の声

第61回JCNA全国総会in東京に参加して

五島聖マリア病院 Sr山本ふみり

去る9月15日(木)15:30に五島福江島を、ふわふわ雲の上から、海や島の形を楽しみながら出発し、東京についてのが18:40、一気に浦島太郎ならず浦島姫子のようなタイムスリップした感の中で過ごすのかと少々不安になった。4名の神父様方と18名の出席者で、一つひとつ丁寧に審議がなされた。役員さん方の色々な諸事情を抱えつつも、その勤めに忠実であろうとする姿の中に、カトリック看護師としての賢明さを思わされた。一番長女の鹿児島支部長 松村精子さまの心からのご意見をありがたく頂きつつ、今後のJCNAについての課題を紐解く事になり、白熱した物を感じた。時間の足りなさや、コミュニケーション不足を感じつつも本部役員1名不足のままとなり、心苦しさも感じた。丸く円になって顔を見ながらお互いに意見を言えるという親近感も感じつつ、屈託なく話せるという、同じカトリックという信仰の土台の上に立つ者同士しかできない事も感じた。何とかして、このJCNAを大切に継続していきたいと思わされた。一人一人の重荷を、みんなで分かち合い助け合っていけたらどんなにいいことだろうと思う。そしてJCNAのいいところを、もっとアピールして一人でも多くの会員を増やせたらと思った。帰りの飛行機からは、夕映えのオレンジ色のグラデーションの中、夕日が沈むその様はまるで御絵の背景のようで神様からのプレゼントに思えた。神様、皆様に感謝です。

JCNAと共に生きる

上智大学 総合人間科学部 看護学科 西山 悦子

大学を卒業して臨床の場で19年、教育現場で20年を迎えた。臨床現場では、毎夜毎夜、がん患者さんが苦しみながら亡くなっていかれた。なにもできず、呆然と立ちすくむ自分がいた。その後多くの方々との出会いがあり、カトリックに導かれた。カトリック看護協会があることを知った。”私の心のよりどころはここだ！と瞬間に感じた。問い合わせに対して当時聖母大学におられたシスター東野が、長い長い丁寧な返事をファックスで送ってくださった。多くの失敗、過ちを犯してきたが、「たいせつなのは、どれだけたくさんの方のことををしたかではなく、どれだけ心をこめたかです」というマザーテレサの言葉とともに、JCNAに軸足を置き、信仰を生きていきたい。

編集後記

支部からの短信に込められた報告に、地域密着の日々の活動をヒシヒシと感じました。それぞれの活動の喜びを分かち合っ、もっともっと楽しく明るい会にしたいと思います。集う・語る・一緒にする、私の大好きな言葉です。これからも皆様からの忌憚のないご意見をお寄せ頂きたいと思っています。どうぞよろしくお願ひします。お忙しい中の寄稿感謝しております。ありがとうございました。後記担当 西村晶子

JCNA通信第20号 2016.11.20発行

- ☆ 会長 西村晶子
- ☆ 副会長 山口郁乃
- ☆ 会計 石原貴子

- ☆ 広報メール icna-honbu@outlook.com
- ☆ ホームページ <http://www.icna/info>
- ☆ ツイッター https://twitter.com/icna_honbu

- ☆ 本部事務局 西村晶子
〒東京都練馬区豊玉南1-1-10-106
Tel/FAX 03-3557-3812
メール snishimura12252000@gmail.com

- ☆ 本部顧問司祭 飯野雅彦(カトリック磯子教会)